子育てかわら版 第15号

園長だより９４号復刻

過去の園長だよりです

平成１６年１月２１日発行

園長懇談の中から

発達診断に基いて希望者と園長懇談を行って来ましたが、その中で良く出された質問や相談内容等をお知らせしたいと思います。

1. 他の子供達との支配服従関係について

年上や、強い人には従うが、弱そうな子や、年下の子に対して従わせようとすることについての相談が多くありましたが、順調な成長過程であると思いますので安心をして欲しいと思います。人間は縦の序列によって秩序を保つ動物ですので、子供だけが群れをなして遊び合う中で自然にその序列を身につけていきます。詳しくは別添の子育て小事典8号を参考にしてください。

2. おじいちゃん、おばあちゃんが過保護

おじいちゃんおばあちゃんというのはだいたい過保護なものです。そして頑固です。ですから、「止めてほしい」と頼んでもなかなか止めてくれないのが実情だと思います。そんなときには発達診断のプロフィールや園長を利用して欲しいと思います。

プロフィールを見ることによって、過保護であることがはっきりと分かります。それから、自分では言い難いことも「園長からこう言われた」と言うと、言い易いと思います。過去にそうやって改善された例が沢山あります。

3. どこまで子供に任せ、どこから躾をするべきかその境について

子供の自発性を育てるために子供に任せて良い範囲と、親の考えによって躾しなければならないその境目が良く分からないと言う話は今回に限らず良く聞きますが、絶対的なものはありません。その家庭で決めるルールだと思います。しかし、任せている態度が適切であるかどうかを確かめる方法はあります。発達診断の注意判断力がDQ線の右にあれば、子供を信頼して距離をおいて見守っている好ましい育児態度であると言えます。自信を持って今の態度を貫いていいと思います。この際一旦決めたルールは絶対に守らせるべきだと思います。そして、そのルールの範囲内では子供の自由にさせてあげると考えたほうが良いのではないでしょうか。子供は自由を与えられた範囲内では、試行錯誤しながら自分の判断で行動します。また、決められたルールの範囲を超えた場合にいつも同じ基準でたしなめられることによって、世の中には守らなければならないルールがあることに気がつき、自分の判断でルールを守ろうとします。

子どもの判断力は子供に任せることによって育ちますが、子供に任せるというのは、良い結果になることも悪い結果になることも子供の判断に任せることです。そしてその結果の責任を本人に取らせることです。良いことをすれば、良い報いが、悪いことをすれば悪い報いを受けることによって、悪い報いを受けないように判断するようになります。

注意判断力がDQ線の左にある人は、子供に悪い結果の体験をさせまいとして、子供の能力より低い所で口出しをしているので、子供が判断する機会を奪っていることになります。反対に、DQ線の右の人でも子供の成長は早いので、ルールはどんどん高度化していっていいと思います。

4. 拡散思考を伸ばすには

働き別の集中思考が一番右にあったり、一番左にあったりすることは結果重視の育て方をしている結果で、子供自身が結果の良し悪しに非常に感心を持っていることなので、幼児期にはぜひとも改善したい事です。

集中思考を直接上げたり下げたりする事はかえって悪い結果になることもありますので、拡散思考を伸ばすようにしたいものです。しかし、これが意外に難しいようです。

拡散思考が高いということは、失敗を気にせず、新しい事や、人が考えない事をドンドン考えつく能力ですから、明るく、積極的、活発、行動的、良い意味でのわがままが許されている（ある程度のわがままが許されていると言う事は愛されているということを実感します）子供と言えます。

拡散思考を伸ばすには失敗も貴重な経験として、受け止めてあげ、むしろ失敗した場合でも取り組んだ姿勢を褒めてあげること、また、トランプ、マージャン、オセロなどの遊びや、廃品工作をすることにより育ちます。

過去にわたって色々な方法をお話してきましたが、最近、一番良い方法はスキンシップをしたり、ニコニコと笑って接することではないかと思っています。そしてルールを越えてやりすぎた場合には一貫した態度で咎めることではないでしょうか。それは、拡散思考は車で言うとエンジンに当たります。エンジンが強すぎると暴走してしまいますので、やってはいけないことはしっかりと躾なければならないからです。